京都新城発掘調査広報発表資料

2020年5月12日
公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

所在地：京都市上京区京都御苑　京都仙洞御所内
調査期間：2019年11月5日～2020年3月24日
調査面積：125㎡

1. はじめに

今回の調査は、京都仙洞御所内において消火設備整備工事に伴い実施したものである（図1）。調査地は平安京左京一条四坊十町跡および公家町遺跡、そして京都新城の推定地にあたる。京都新城は、豊臣秀吉がその最晩年の慶長2年（1597）に御所の南東部に築城した城郭である。当時は「太閤御屋敷」「太閤御所」「新城」などと呼ばれていた。これまで京都大宮御所・京都仙洞御所がその跡地にあたると考えられてはいたが、文献史料が少なく、発掘でも確認されたことがなかったため、その実態は不明であった。

2. 調査の成果

調査では、仙洞御所（寛永4年・1627年造営）の造成土の下層から石垣と堀の一部を検出した(図2)。

石垣：南北方向に約8mを検出し、南北共に調査区外へと続く。堀の西肩を成す石垣である。石垣は、自然石を積み上げた野面積みと呼ばれる技法による。3～4段の石が残り、現存高は1.0～1.6mである。ただし、石垣の上半部は崩されていることが当時の地表面との関係から判明しており、本来は高さ約2.4m、石は5～6段積まれていたと考えられる。構築角度は約75°である。石垣の背面には、拳大の礫を多量に詰めた裏込めの礫があり、幅は約1.5mある。石垣の下には、不等沈下を防ぐために根石が存在する。

石はほとんどが自然石で、石を割る際に穿たれる矢穴は1石にしか認められない。石のサイズはおおよそ2群に分かれ、大が長さ0.8～1.1m、小は0.5～0.6mとなり、石をよく選択して採取したことがわかる。石材は花崗岩を主とし、他にチャートや石英斑岩がある。いずれも京都盆地周辺で採取されたものとみられる。

石垣は、大きな自然石を用いながらも面や並びのラインが良く整えられており、丁寧に構築されている。石垣の年代は、構築技法・層位関係・出土遺物などから安土桃山時代のものとわかる。

堀：南北方向に8mを検出した。堀の幅は3m以上で、西端が石垣で東端は調査区外になる。堀の深さは約2.4mである。堀の底には厚さ40㎝以上の粘土が貼られている。

堀は多量の礫で一気に埋められている。この礫層の中には石垣の上半部を崩し落とした転落石があり、堀の埋め立てと石垣を崩したのが同時期であったことがわかる。また、堀の中からは桐文と菊文の金箔瓦が出土している。なお、堀の幅については表面波探査によって幅約20mと推定されている（京都大学防災研究所：釜井俊孝教授・土井一生助教により実施）。

3. まとめ

京都新城は、東西約400m・南北約800mの320，000㎡の広大な敷地を持っていた（図1）。秀吉の死去後は、高台院（おね・ねね・北政所）の屋敷として利用され、慶長5年（1600）関ケ原の合戦の直前には門、塀や石垣などが壊されている。今回の調査で確認された堀の埋め立てや石垣の破壊はこの際のものと考えられる。そして寛永4年に後水尾天皇のために仙洞御所が造営され、現在に至っている（図3）。

高台院の屋敷は、京都新城の北東部を占めており、今回の石垣はその西部に位置する。一方、豊臣家の京都の拠点として築いた聚楽第は、近年の研究でその平面形がほぼ明らかとなっている。聚楽第の本丸東堀を京都新城の東端を寺町通と仮定して、聚楽第の復原図を仙洞御所周辺の現況図に重ねたのが図4である。この図によると、今回発見した石垣は、聚楽第本丸西堀の西肩とほぼ一致する。このことから京都新城と聚楽第の本丸の規模が近いものであったと推定できる。

晩年の秀吉は、伏見城や大阪城さらに名護屋城などに居城しており、その政権構想の中で、日本最大の都市であり天皇・朝廷の存在する京都をどのように捉えていたのかは必ずしも明らかではない。今回の石垣の発見によって、京都新城の実態解明に向けて定点を得た事になり、秀吉の晩年の政権構想の再評価にも繋がる可能性がある。なお、消火設備は建設場所を変更し、石垣と堀は保存される事が決定している。

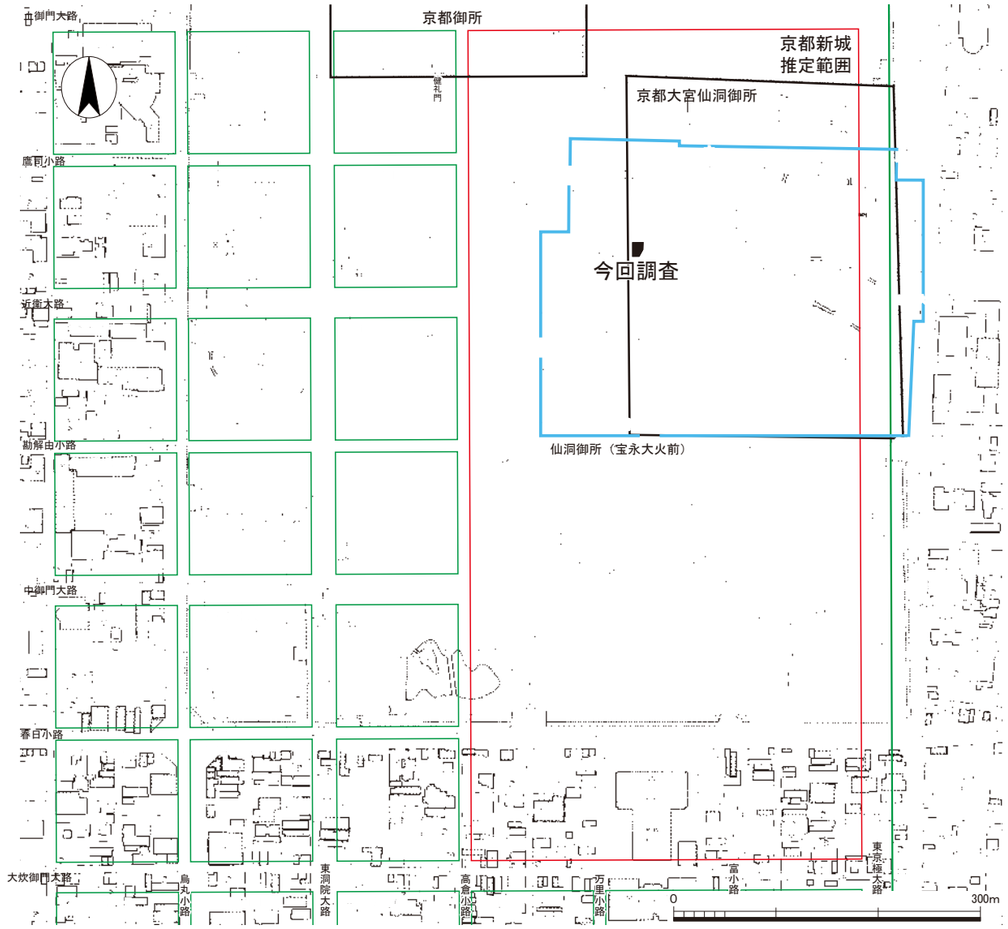

図１　調査位置図（１：6,000）※緑は平安京の街区

表　京都新城関係年表

年号	西暦	月日	事柄	年号	西暦	月日	事柄
天正10年	1582	6月2日	本能寺の変。	慶長2年	1597	正月24日	京都御屋敷の縄張りを行う。北は三条坊門、西は東洞院の4町四方。『言経卿記』『舜旧記』
		6月13日	山崎の戦い。			4月26日	屋敷替え。北土御門より南へ6町、東は京極より西へ3町（計18町）。『言経卿記』
天正11年	1583	8月28日	大坂城築城開始。			4月26日	太閤御所、ワカゼカ池のある場所に造営される。『義演准后日記』
天正13年	1585	7月11日	秀吉、関白となる。			8月3日	新城太閤御所、西南に拡張。『義演准后日記』
天正14年	1586	2月23日	聚楽第造営開始。翌年9月竣工。			9月21日	太閤御屋敷竣工。『言経卿記』
天正16年	1588	5月15日	方広寺大仏殿造営開始。			9月26日	秀吉と秀頼上洛、家康が供する。秀頼、禁裏辰巳の角の新宅に移る。『言経卿記』『義演准后日記』
天正18年	1590	7月11日	後北条氏滅亡、秀吉天下統一なる。	慶長3年	1598	8月18日	秀吉、伏見城にて死去。
天正19年	1591	閏1月	御土居の築造開始、4月にほぼ完成。	慶長4年	1599	9月26日	北政所、禁裏辰巳の角、故太閤の殿中へ上洛。大坂より京の城へ移る。『言経卿記』『舜旧記』
文禄元年	1592	4月12日	文禄の役始まる。	慶長5年	1600	8月1日	伏見城落城。
		8月20日	指月伏見城築城開始。（文禄3年拡張工事）			8月29日	秀頼卿御城の門・塀・石垣を壊す。『言経卿記』『義演准后日記』『時慶記』
文禄2年	1593	8月3日	秀頼誕生。			9月15日	関ケ原の戦い。
文禄4年	1595	7月15日	豊臣秀次自害、聚楽第破却。	元和元年	1615	5月8日	大坂夏の陣、豊臣氏滅亡。
文禄5年	1596	閏7月13日	京都・伏見で大地震、指月伏見城倒壊。	寛永元年	1624	9月6日	高台院死去。
慶長2年	1597	2月21日	慶長の役始まる。	寛永4年	1627		仙洞御所・大宮御所造営開始。

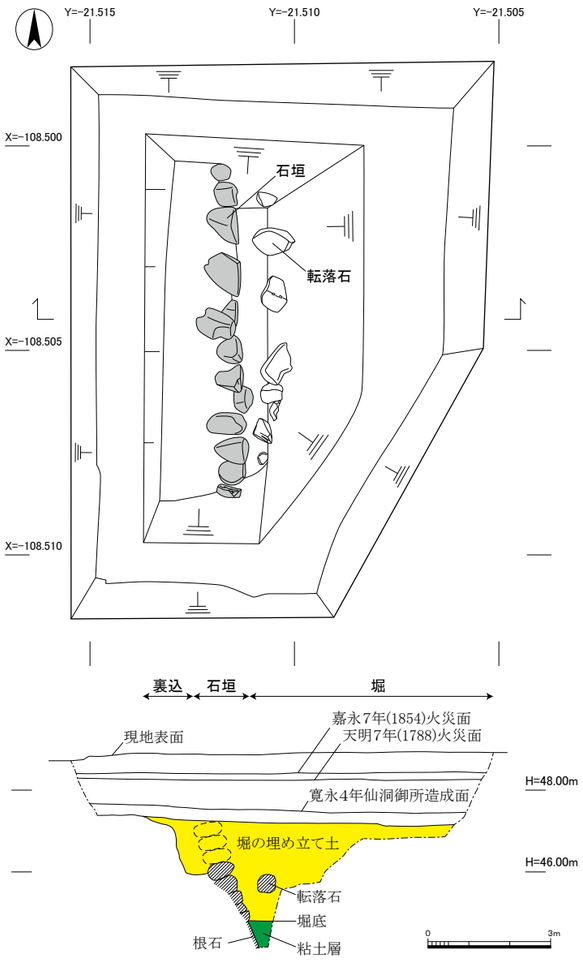

図2　大宮仙洞御所　概略図（1：150）

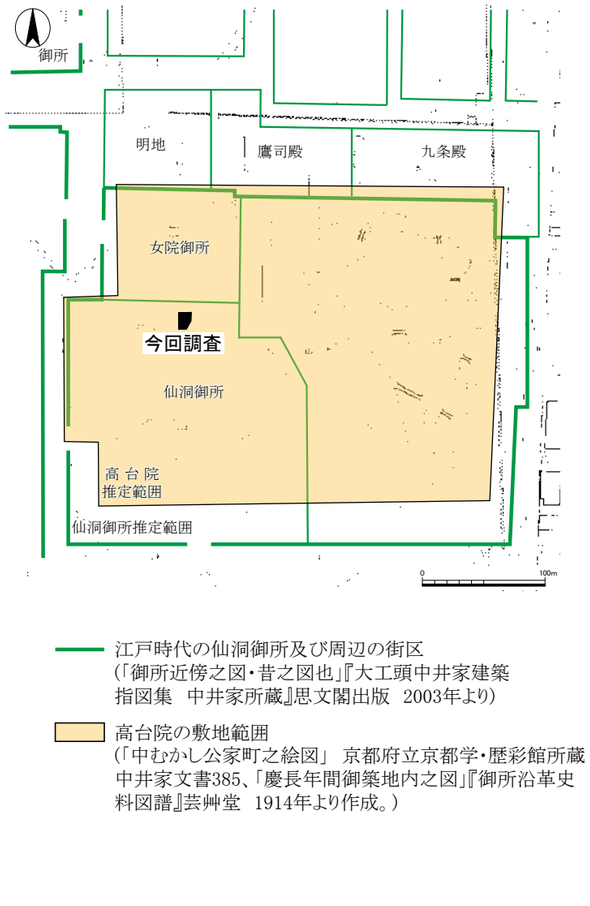

図3　宝永度大火前の仙洞御所(1:5,000)

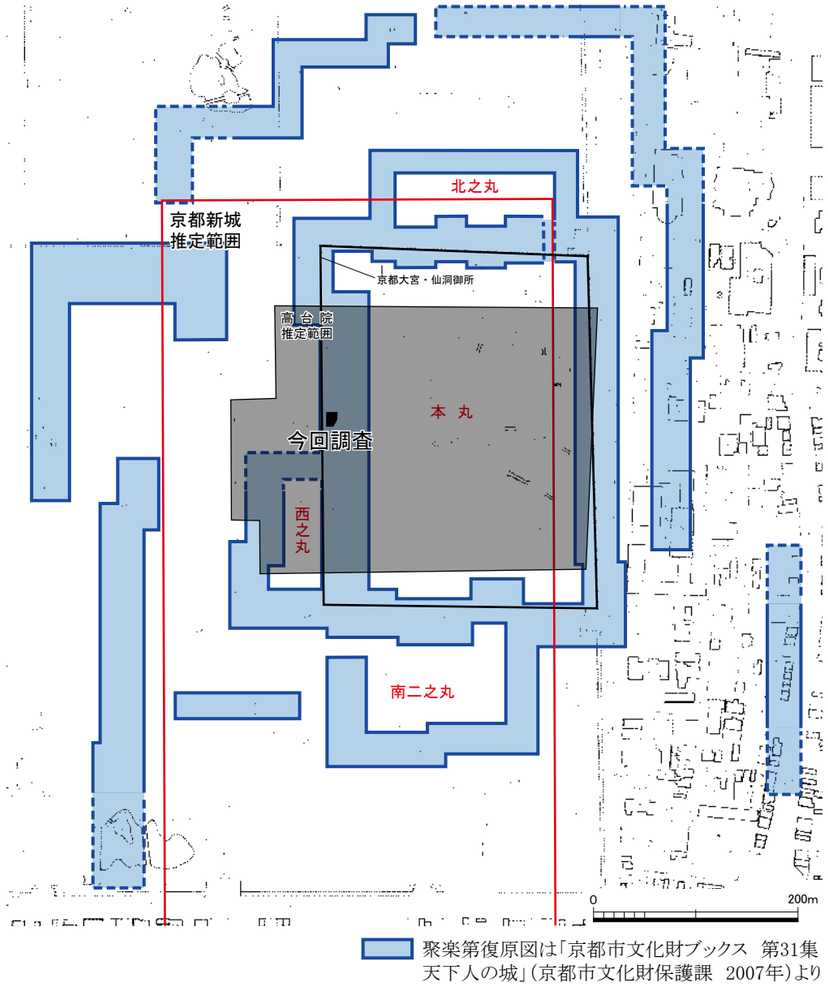

図4　京都新城・仙洞御所と聚楽第の規模比較（1：6,000）

図5　石垣オルソ画像（東から）（1：80）

図6　調査区全景（南東から）

図7　石垣（北東から）